

尚絅子育て研究センター

# 児やらい

*koyarai vol.12 2015*

Child-rearing to generate mutual recognition  
Child Studies Center at Shokei

第12巻 2015年



## はじめに

尚絅子育て研究センター研究誌『児やらい』は、本誌で第12巻を数えます。2000年より尚絅短期大学部子育て研究センターが発足し、4年の年月を経て2004年に『次世代育成研究・児やらい』第1巻が発行されました。その当時は、庶民のくらしと労働が急速に変容し、子どもの育ちにもさまざまな影響がみられるようになった時期であると記憶しています。そして、地域、自治体行政、保育・幼児教育の現場のかかえる課題も年々深刻化する中で、保育者養成を担う幼児教育学科の教職員が中心となりながら、少しでも自分たちの研究や教育の成果を地域に還元していきたいとの思いから、毎年公開シンポジウムや研究会等を開催し、保育現場との関わりをもちながら子育て研究に取り組んできました。

2013年より当センターは、尚絅短期大学部所属から尚絅大学全体の組織になり、さらに今年度からは、尚絅大学地域連携推進センターとの協力関係を持ちながら、地域の子育て環境の充実に向けて、また保育・幼児教育に関する研究に寄与すべく、その役割と課題を担うこととなりました。そして、センター長も3代目となり、先人の志に学びつつ、新たな課題に応えていけるようさらなる努力を重ねていきたいと考えています。

例年、夏に開催している公開シンポジウムは、今年度で15回目を迎えようとしています。今、子どもを育てる、子どもが育つ環境が豊かさと輝きを失いかけています。それに伴い、保育・幼児教育の現場では、地域に代わってさまざまな役割・機能を求められています。今後は、それを「地域づくり」の視点からもう一度整理し直し、保育園・幼稚園・こども園・福祉施設等の現場が子どもの豊かな育ちを保障しながら親の子育てを支える「地域」の拠点へと役割を果たしていくよう、そのための条件整備の課題についても提起していきたいと考えています。

熊本各地には、他県に比べるとまだまだ誇るべき自然環境が残っています。また、地域の人々の暖かさやつながりもあります。その宝を発掘しながら、丁寧につなぎ合わせていくことができれば、子どもはもとより、孤立しがちな親も、さらにはお年よりもハンディをかかえた人も、誰もが安心して暮らせる「まちづくり」に結びついていくのではないでしょうか。

私たちは、このような広い視野と未来への展望をもって、これからも子育ての現場において対話・交流を深めながら研究をすすめていきたいと考えています。本誌第12巻では、査読論文に加えて新たに現場からの「実践報告」を盛り込みました。保育・幼児教育、福祉、子育て支援などの現場には、活字にされずとも私たちが学ぶべき実践があふれています。それを一つでも多く拾い上げ、皆様にお伝えしていくことも本誌の役割であり、『児やらい』や尚絅子育て研究センターの研究活動を通して、熊本の保育・幼児教育の質向上に貢献できればと考えています。今後も、どうぞよろしくお願いします。

平成27年5月25日

尚絅子育て研究センター長

増淵千保美

# 目 次

## はじめに

### I 論文

1 幼稚園における歌の選曲要因としての時間という観念.....	3
曾田 裕司	
2 児童の学業的満足遅延と動機づけとの関連.....	13
小川内 哲生	
3 教育（保育）現場における危機対応のあり方.....	23
～いじめ問題等への対応について～	
緒方 宏明	
4 保育者にとっての「教育相談」の難しさ.....	37
－幼稚園における「教育相談」についての予備的考察－	
柴田 賢一	

### II 実践報告

1 めざそう「子どもの願いを叶える保育」.....	49
～ワクワクしながらあそんで笑う保育の意味と意義～	
高橋 光幸	
2 個性ある保育者育成を目指してピーク制の取組.....	69
緒方 宏明・横山 博之	

### III 事業報告

1 公開シンポジウム.....	87
2 保育実践講演会.....	97

### IV ご案内 ..... 109

### 編集後記 ..... 113